

各支店長・営農指導員殿

ブロッコリーの育苗について

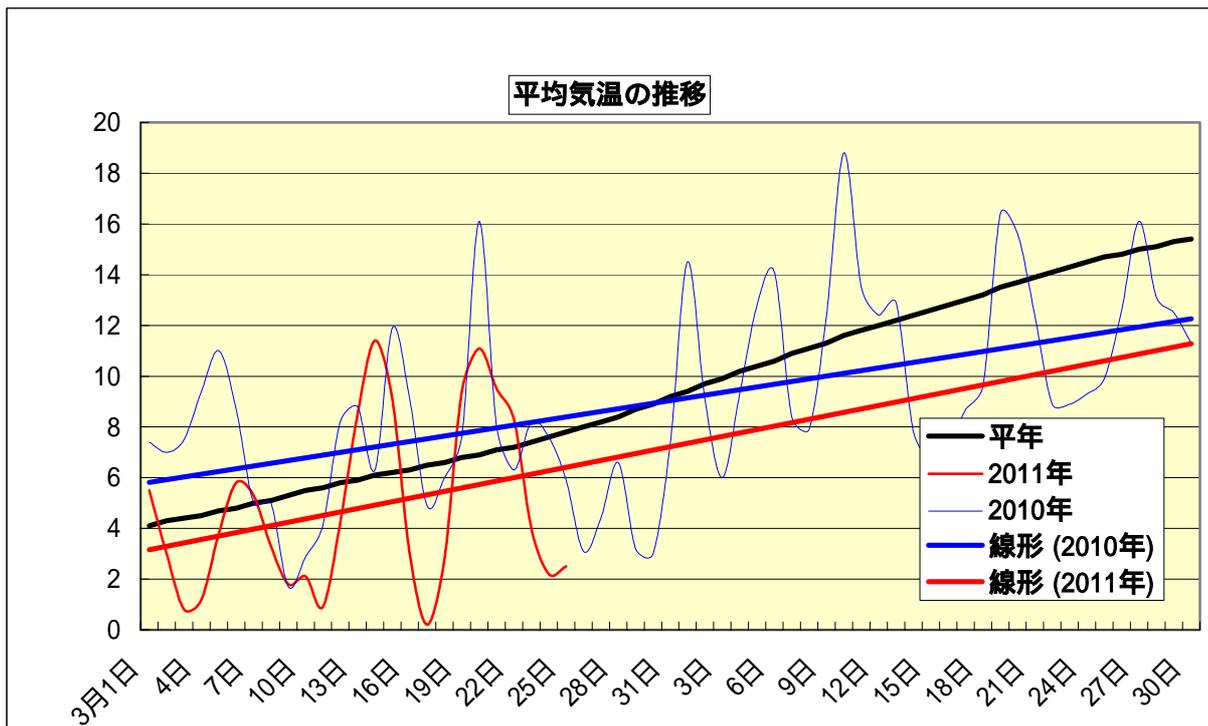
本年は、遅くまで雪が残り、3 月は気温もかなり低く推移しております。こうした中でブロッコリーの育苗は、発芽苗の鉢上げが順次行われており、鉢上げ後、多くは冷床にて管理されております。

昨年は、4 月に入ってから定植後、平均気温がズーっと 13 を下回るなど気温が上がらず、結果として早期出蕾（ポトニング）がかなり発生しました。本年はこれまでのところ、昨年より低温傾向で推移してきておりますので、この点については充分留意しなければなりません。

ポトニングとはブロッコリーの苗が低温に当たることで、株がまだ十分に成熟する前に蕾を作り始めてしまう障害の事です。従って、育苗期の低温を避けなければなりません。低温感応については、苗の大きさ、品種、栄養状態によって温度への反応が違っているので、一概には申せませんが、育苗中は、出来れば 10 から 25 ぐらいで管理するのが望ましい。ただ、アブラナ科植物は晩のうちの低温を翌日の日中に高温管理することで、低温の影響を打ち消す反応がありますので、一日の最高、最低の温度の平均を、概ね 15 以上になるように管理すれば問題はないと考えられます。定植後はトンネル栽培をしない以外は、温度コントロールが出来ないので本圃での低温障害を避ける意味でも、早植えなど無理な作付けしないようにします。良いものを作るためには肥料切れを避け、出蕾まで十分大きな株を作ることが肝要です。



ポトニングの発生した株。葉数が不足している中で花蕾が出来てしまったので、商品とならない。



線形とは日々の変動を平均化して傾向値を表したものです。